

## 平成 26 年度卒業式 学長式辞

平和公園の桜の芽も膨らみ、柔らかな春の日差しが平和都市広島を包み込む季節となりました。そして今日の良き日、251名の皆さんの新しい旅立ちを、高垣広島県副知事様をはじめ、多くのご来賓の方々のご臨席のもとにお祝いできますことは、教職員一同の最も喜びとするところであります。ご卒業、おめでとうございます。

さらに、今立ち並んでいる皆さんをしっかりと支え、今日のこの晴れの日をともにお迎えになっていらっしゃる保護者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

只今皆さんに、卒業あるいは修了の証として、学位記をお渡ししました。その文言には、例えば学部卒業生に対しては、「所定の課程を修めたので卒業を認め、学士の学位を授与する」とあります。それぞれの学科や専攻科あるいは大学院専攻で学んだ知識と技能について、社会で十分にその力を発揮出来る能力が備わっていますという大学としての保証でもあります。言葉を換えれば、社会という大きな未知の空に向かって、「飛行機に十分な燃料は積みました。さあ飛び立ってください。操縦する力は、あなたに充分備わっているはずですよ。」という大学のメッセージでもあります。

卒業を英語で言うと **Graduation** ですが、これはラテン語で階段を意味する、**gradus** に由来し、階段を昇りさらなる向上へという意味が込められています。ヘルマン・ヘッセが書いた『데미アン』という小説の中にある、「鳥は卵の中からぬけ出ようと戦う」という言葉に象徴されるように、皆さんは大学という卵の中で、栄養を吸収して作り上げた体とエネルギーで、殻を破って社会という新たなステップに今、飛び立つ時であることを意識してください。

それでは次に、皆さんを待ち受けている社会について考えてみましょう。間違いなく言えるのは、急速にグローバル化が進展する、多様性に満ちた社会が待ち受けているということです。経済のみならず、宗教や文化を含めた様々な価値観が国境を越えて濃密に触れあう時代に、真正面から向かい合って生きていかなければなりません。したがって、日本という島国の中で育てられてきた経済、社会、文化様式から派生した今までの「均質性のイデオロギー」を乗り越え、多様性の社会を生き抜くことが、皆さん一人一人に求められていることをしっかりと認識してください。

次に、これから社会に飛び立つ皆さんが、この多様性に満ちた社会とどのように向かい合うべきかについてお話を進めることにします。その中で、私は特に、次の2つのことをアドバイスしたいと思います。一つ目は、自分とは価値観や考え方が異質なものであったとしても排除や反発はせず、まずは十分に相手の考え方なりを理解しながら、相互に評価し合う姿勢を持つことが大事であるということです。考えてみると、私達が学んできた学問知識や知恵自体も、異なる社会や文化に由来する様々な考え方同士が、議論の中で磨かれ、鍛えられながら確立されてきたものです。異質なものをも受け入れる寛容な姿勢を持つことによって、自己の進歩が図られます。伸びやかな発想を持ち、多様性の社会の中で心広く成長することを皆さんに期待しております。

多様性に満ちた社会は、しばしば序列や優劣を競う競争社会を生むと言われています。ちなみに、多様性という言葉ですが、最近では、「生物多様性」という単語を耳にすることが多いと思います。確かに、多種類の生物が存在するとき、その世界には生存競争が生まれ、弱肉強食の社会がイメージされます。

ここで二つ目のアドバイスとして、多様性社会における、しなやかな生き方の大切さを心に留めておいて欲しいと思います。実際に、弱肉強食の生物界で生き残れるのは、他の生物を襲う能力に長けた強者なのでしょうか。少なくとも生物の社会で見ると、そうは言えません。とてつもない大きな牙を持った、猫科では進化上、最も獰猛な生物と言われていた剣歯虎は、生物進化の過程で、子孫を残すことなく途絶えています。一方、したたかに生存競争で生き残れる生物は、一般に、戦うことよりも逃避行動に優れ、自分の生物学的特徴を活かしながら、環境に上手に適応できる資質を持っています。個々の生物の持つ能力を活かし、周囲の環境に適応して生存している状態を専門用語ではニッチというのですが、ニッチを見出す能力が自然界で生き延びる生物の武器になります。

これを人間社会に例えると、多様性社会においては、多大な権力や他人を圧倒する能力のみが、社会において存在感を発揮できるとは限らないということです。序列や優劣などに拘ることよりも、生き甲斐や感動の中に幸福感が満ちています。多様性社会においては必ずや、自分にふさわしい様々な環境が職場や社会の中にあるはずで、自分の個性や能力を発揮できる場所を見いだすしなやかな発想こそが、皆さんの存在感を高めることに繋がるということ、しっかり意識して社会に飛び出してください。

最後に、もう一つ皆さんにお話ししたいことがあります。学位記には名前の下に生年月日が記されています。まさに皆さんの命がこの社会に誕生した日です。誕生に際し、御家族や周りの方達は皆共通に、精一杯笑顔であなたを迎えたはずです。国家、民族そして文化がどんなに異なっても、赤ちゃんに接するときには目を細めて皆、笑顔で応えます。多様性社会であっても、心からの祝福と幸せな気持ちを相手に伝える時には人間は、暖かな笑顔になります。これは人類に共通した普遍的感情です。笑顔を与える時、それは相手に心からの励ましを与え、自らも豊かな気持ちに浸る時でもあります。

皆さんは、学位記に記されているように、この広島キャンパスで幅広い教養と専門教育、そして卒論においては、物事を探求する力など多くのことを学んだはずです。さらに、クラブ活動、そして地域でのボランティアなどで培われた人間力も備わっています。こうした力を十分に発揮し、これからの社会において、多くの人に笑顔を与え、励ましや勇気をもたらせる人間として成長されることを期待しています。

弥生、3月の今日、いよいよ飛び立つ時がまいりました。さあ、エンジン点火を開始してください。皆さんのこれからの飛行を、私達教職員は見守り、そして心から応援を続けていきます。お元気で。

平成 27 年 3 月 19 日 県立広島大学長 中村 健一